

道路

市道第C 59号線 通称 石置き道路の拡幅整備計画

原 邦彦議員(公明) 大沼町二丁目の東久留米市との境界地域は、住宅開発が進み人口が増え、一方である。交通安全対策の面で地域からの要望が多い。市道第C 59号線の拡幅計画のその後の状況と、今後の取り組みや決意についてはどうか。

市長 当該道路は拡幅計画を持っているが、現状の道路幅員について隣接地権者と認識が異なっていることから、整備計画が推進できない状況にある。平成15年4月から周辺測量調査を行うことで、地権者に市の考えを説明したが、市としては今後地権者と話し合いを続けていきたいと考えている。



小平第十一小學校正門前

要件を満たさないため、市道認定することは考えていない。建設当初から、給食用車両と児童の登下校時の敷地内通路として設置したもので、現在のところ公道にする計画はない。

うになったと評価を得ているが、初期のブロックは気づかないこともあったため、緑色に塗装して、目立つように工夫をした。今年度は、市役所西通りや花小金井駅北口周辺等を予定している。来年度以降も、補修工事等で設置していきたい。

商店街活性化説明会で店舗のリアフリー化等を提案した。モデル地区とする考えはないが、今後も整備を進めたい。

鈴木中通りの拡幅整備を

鈴木 進議員(フオ) 今までの苦情・事故等の内容は、市から小金井カントリー倶楽部に対し、拡幅のための要望ができないか。

佐野都夫議員(政和) 昨年設置された、歩車道段差UDブロックの評判や課題等は、今年度の設置予定と来年度以降の計画は、

カラー舗装等による注意喚起や雨の日対策等を講じられないか。

ワークショップをつくり、市内道路・歩道拡幅等の優先順位等を決め、計画的に整備していくべきではないか。

市長 苦情は、道路の冠水等で年間数件ある。事故は約3年半で5件と聞いている。今後歩道拡幅についての協力をお願いしていきたい。

状況に応じた交通安全対策を検討したい。また、より滑り止め効果のある特殊マンホール位置づけ、総合的なリアフリー化を推進できないか。

市長 車いす等の利用者から、段差をスムーズに通過できるよ



小平駅南口に設置された歩車道段差UDブロック

平成12年の都営住宅建てかえ時に、現在の不自然な道路形態についてどう検討したのか。

都の通路敷地を市に移管し、市の学校用地の一部を道路として市道化し、変則的な道路を解消すべきではないか。

学校用地を道路として使っているが公道にできない理由は、**市長** 小平警察署に横断歩道の設置を要請していく。特に道路としての取り扱いについては検討していない。

鈴木中通り(御幸町)



ふたへの取りかえ等を検討する。ワークショップの設置は考えていない。

教育文化

小・中学校の安全確保

浅倉成樹議員(公明) スクールガード(学校安全警備員)の配置等の必要性についての見解は、

防犯関連施設の整備状況とその必要性についての見解は、

警察署・消防署との緊急連絡体制の構築や、IT技術を活用した地域住民への情報提供の必要性は、

地域によるパトロール等、地域との連携強化への見解は、

教育長 人的配置の有効性は認識しているが、現段階では困難と考える。

学校の出入口は登下校時のみ開放し、他の時間は原則として閉めることにしている。防犯カメラの設置については解決

すべき課題も多く、現時点では難しいと考えている。

全校に非常通報装置「学校110番」を設置している。情報提供システムについては、今後の研究課題としたい。

防犯パトロール等、具体的活動の一層の充実を図りたい。

防犯対策に係る国や都の財政援助は現在のところないが、教育長会等に働きかけをしていきたい。

低学年における少人数学級を実現させ、モデルとなるよう努力すべきであるかどうか。

小1プロブレムや特別支援教育等に対応するための具体的な施策・方向性は、

教育長 教員の配置が認められないため不可能である。都は1学級40人の基準を定めているが、実際には20人から40人まで幅のある学級編制となる。学級の適正規模については、一律に何人と数値化できない。

都の許可なく、少人数学級を実現するのは不可能である。

柔軟で多様な学習形態を弾力的に設定し、きめ細かい指導を進めることが大切と考える。

小1プロブレムとは 小学校に入学したばかりの小1年生が集団行動がとれない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態のこと。(東京都教育ビジョンより)

障害児学級を維持しながら障害児教育の充実を図るべき 国が出してきた方向は、真のインクルージョン教育とはほど遠いと考えるがどうか。

特別支援教育についての検討内容、進行状況は、

市の方向を決定するに当たり、国等の考えだけでなく、関係者の意見を大切にすべきでは、

教育長 それぞれの学校で障害や発達課題に応じた個別指導計画を作成して指導に当たっており、充実した指導が進められていると考えている。

インクルージョンの考え方に通じるものと考えられている。昨年度、特別支援教育研究協議会を発足し、研究を進めて

いる。今後は移行に向けて年次計画の作成や関係諸機関との連携体制づくり等に努めていく。

各協議会等で関係児童や保護者等の意見を聞く予定である。

教育長 大きく変わらないが、採択時に教科用図書審議委員会等を設置している。

教員の意見を聞き、教育委員会の権限と責任において採択を行っていく。

見本を展示する図書館を、2館ふやして6館とした。

前回と同様、十分に検討できる体制をとっている。教科書採択については、原則公開と考

えている。

雨情祭は継続すべき 永田政弘議員(政和) 先日、第9回雨情祭が開催されたが、今回をもって中止となる。

雨情祭のこれまでの歴史は、アンケート結果の内容は、

雨情祭中止についてどんな議論がなされたか。今後継続することは考えられないか。

教育長 第1回が、平成8年に上水南公民館で開催された。第2回目からは、小平雨情会と市教育委員会の共催により、ルネこだいらで開催され、毎回大変好評を得ていた。

回答数は326人で、今回が最後で残念である。資料集が丹念に整理されている等、長年の労

市民への公開という点で、前回に比べて変化はあるのか。

市教育委員の検討期間は、前回より長いのか。採択の論議は公開で行ってほしいがどうか。

教育長 大きく変わらないが、採択時に教科用図書審議委員会等を設置している。

教員の意見を聞き、教育委員会の権限と責任において採択を行っていく。

見本を展示する図書館を、2館ふやして6館とした。

前回と同様、十分に検討できる体制をとっている。教科書採択については、原則公開と考

えている。

雨情祭は継続すべき 永田政弘議員(政和) 先日、第9回雨情祭が開催されたが、今回をもって中止となる。

雨情祭のこれまでの歴史は、アンケート結果の内容は、

雨情祭中止についてどんな議論がなされたか。今後継続することは考えられないか。

教育長 第1回が、平成8年に上水南公民館で開催された。第2回目からは、小平雨情会と市教育委員会の共催により、ルネこだいらで開催され、毎回大変好評を得ていた。

回答数は326人で、今回が最後で残念である。資料集が丹念に整理されている等、長年の労

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

を評価する内容だった。昨年8回の終了時に小平雨情会より、会員の高齢化など理由から、次回以降の開催が困難であるとの申し出があった。市教育委員会では、継続できないか検討してきたが、これまでの形で雨情祭を公民館事業として継続することは、困難であるとの結論となった。

医療健康

栄養士の適切な活用配置とデータ管理体制

原 邦彦議員(公明) 保育園、学校等に栄養士が配置されているが、具体的な数は、市教育委員会に統括管理の

できる栄養士を配置すべきでは、パソコン等の整備を進め、

安心・安全を確保するためのデータ管理等を活発に進めるべきと考えるがどうか。

食教育は次世代支援事業にも深くかかわる内容であるので、そうした視点に立った取り組みを進めるべきではないか。

教育長 保育園では4園に各一人、小学校では19校に各一人ずつ配置している。

各施設との情報交換はさまざまな機会に行っている。新たな配置は考えていない。

小学校では献立研究部会でパソコンを使い、標準献立と作業工程表を作成している。

市長 国の指針に食教育の推進として、さまざまな分野の連携が必要とされているので、これらを踏まえ、行動計画の策定を進めていきたい。



教科書見本の展示(中央図書館)